

「地図づくり」プログラムについて 2 作成された地図についての考察

塚本瑠一（大阪薫英女子短期大学）

自然、歩く、考える、発見、地図、表現、創造

緒言

1993年の学会では「地図づくり」プログラムについての概要を発表した。今回は作成された地図について解析した結果を発表する。

前回にも報告したが「地図づくり」プログラムは自然の見方を発見し、さらに、自然の中で考えることを学習する。この地図作りはさまざまな形でこれまでもいろいろな分野で実行されそれなりの効果をおさめている。街造りの基本発想としても、生活料の中でも学校探検、街の探検などに使われている。

野外での活動にも応用でき、キャンプ・プログラムの中でまず安全学習に始まり、ウォークラリーなどのまとめの方法としても優れている。

演者はキャンプカウンセラーの基本的な自然を見る方法として、また、仲間のコミュニケーションをはかる方法として続けてきた。

今回はこれまでの作図についてまとめ解析し、さらに今後の方法論について考えて見た。

1.研究方法

これまで小学生、キャンプリーダー、新入社員などの「地図づくり」の結果をまとめ分析し考察した。

特に先に当学会で報告したS学園のキャンプカウンセラーの研修の成果を中心に研究しその結果を解析した。

2.本論

(1) 地図作成過程とその条件

「地図づくり」プログラムを行ったフィールドとしてはすべていわゆるキャンプ場と山間の研究施設である。したがってその自然度と人工度は場所によって多少は異なっていた。

「地図づくり」の目的は野外活動リーダー養成と社員研修の場合は自然を見る目のトレーニングと子どもたちの指導の基本とした作業であった。小学校4年生のキャンプでは安全学習と体験学習を含めてウォークラリーのまとめとして、また、水族館見学のまとめとして行った。

野外活動リーダー、カウンセラー養成には自然の見方として、1) サイエンスで、2) 心の目で、3) 人間のいる、4) サバイバルを基本とした。

2.作成された地図の分類と分析

(1) 形態として

まず形としては与えられた模造紙を平面的に使ったものと折り紙、キノコなどの採集物、その他で立体化したもの、すなわち、1) 2次元、2) 3次元に二分される。

特殊な例であったが模造紙を木の葉の形に切ったものがあったが、このような模造紙の変形は1例だけであった。

単色は少なく彩色されたものがほとんどであるが、これは準備された文房具の種類によって、または自然の材料をいかに使用するかの発想によって異なる。

(2) 内容

単純なものとしては、1) 地形図的なもの、それに植物、動物などが書き加えられた、

2) 植生図的=環境地図的なもの、人間の作ったものが加わることで環境問題としての価値がある。3) 風が吹き、小川が流れることによって、さらには人間が加わって生物景観、行動学的なものとなる。

これらの動植物、人工物、現象はそれぞれの発想によって変化していく。例えば、1) すべてが動植物で表現されたり、2) 記号に変えられたり、3) 物語になったりする。

グループの全員が森の中で寝ころんで空を見て、その心象風景を色彩で表現したものもある。自然を心の目でとらえると詩が生まれ「こもれ陽の子」といった表現が生まれる。

(2) 地図の価値

評価を目的とはしないが、作成された地図には次のような価値がある。

1) 発想は創造性であり自然を深く広く見る目であろう。

2) 協力度はそれぞれの分業であり、出番が大切にされチームワークがうまく行った時に高まるだろう。

3) 行動度はいかに体を動かしたかで、歩くだけでなく登る、走るなどの成果である。

4) 表現度=工夫は先の発想度と同様であるが、技術的なものがいかに加わっているかを見ることが出来る。

5) 地図はつくるだけではなくプレゼンテーションがいかにうまくできるかが大切である。ここにも発想、演技、テクニック、協力=分業度、がその価値を高める。

結語

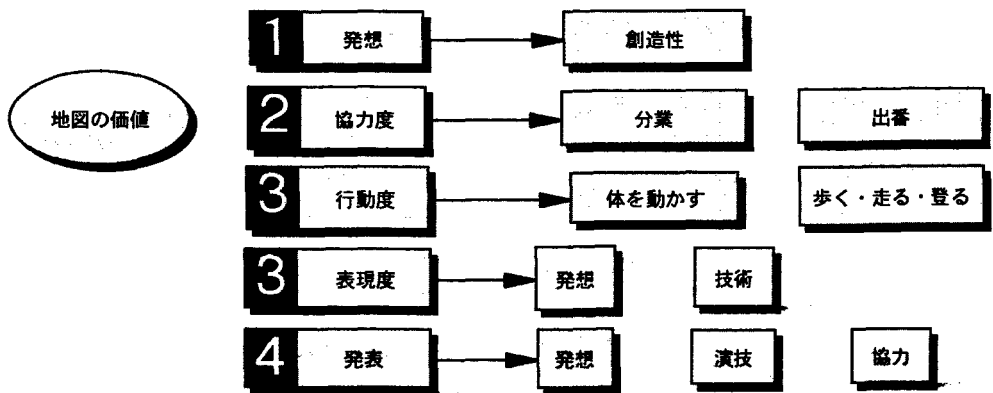
1. 地図作成の過程から完成まで、そして、地図の利用までさまざまな価値を認めることができた。

2. 完成した地図と発表時のパフォーマンスにより多くのことを学習できる。

3. 地図には地形図的なもの、植生図、環境地図、それに、人間の行動、心象風景などが加わって多次元のものとなる。

4. 地図の価値としては、創造性、協力度、行動度、表現度、などがあり、発表時にも同様のものがある。

5. 地図作成プログラムは「先の見えない世界」の中での自己管理や学習の方法論とインテグレーションやマニュアルの不要な学習法である。



作成された地図から

1 サイエンスの目

- 土が歩く場所によって違った
- シャクナゲがまだ咲いていなかった
- 歩く音が場所によって違っていた

2 私から子どもたちに

- 自分たちの体験を話す
- 日常生活に見過ごしていたものを
- あたりまえの音に耳を澄ます
- 協力して何かを作った喜び
- 全員参加の喜び

3 あなたの感性に

- 自然の中で音楽を聞いていた
- 視覚を遮断して音を聞いていた
- ありのままの自然
- 自然のたくましさ